



平成 30 年度 小学生中国派遣研修レポート

所属校【 山の田小学校 】
氏名【 谷野 太志 】



① 現地で感じたこと。

中国の町にフクト、戸建てが無く、高層ビルがマンションがほとんど、人びいました。また夜にせると、まるで遊園地のイルミネーションみたいでライトアップされていました。

ぼくは、この風景をとても好きになりました。中国の印象が明るくなったし、発展した町（先進国）だと思えました。

② 中国の友達との交流記

ぼくは、婦人活動センターと現地小学校にほうきん、六人交流会をしました。もうこの前、中国語でみんなに話しかけました。うまく相手がわかるのが、少し不安でした。しかし、みんなが喜んでくれて、おれいにマフラーをくれました。また、現地小学校では、日本にはない、ロボット、プログラミングを教える授業がありました。操作がよくわかるから、なかなかに時間がありました。生徒



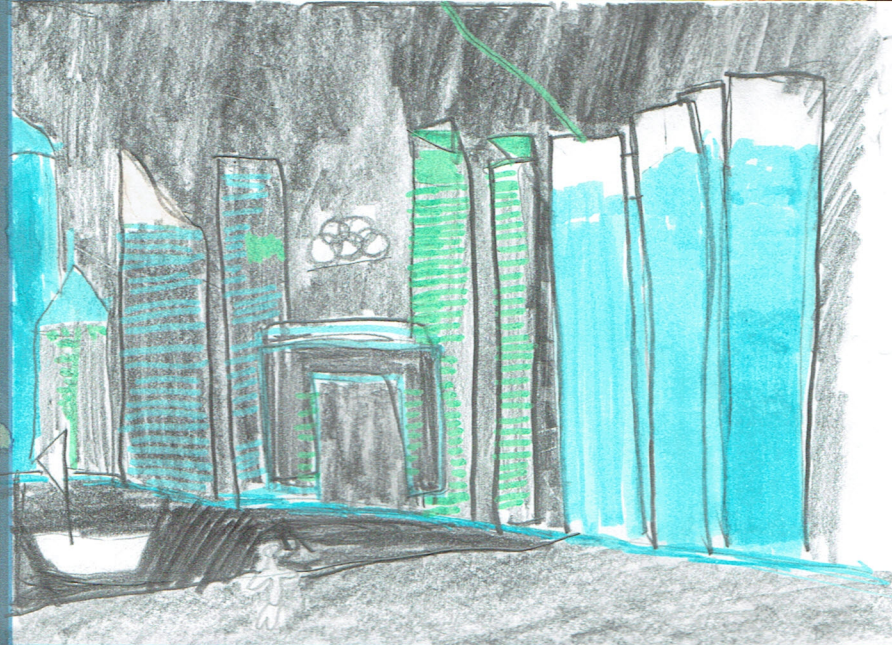
がよかったです。なかなかに時間がありました。生徒



たかが優しく教えてく
 らまじき。二人共に
 うれしいびきごとき一
 生あすの木ほい
 田心い出にしたいです。



③ まよめ
 今回の研修で、中国は優
 しい人から、おいしい先
 進国なんだと、おまじと
 田心い出にしたいです。
 た。元開にはないイル
 ーネーション
 へまをになつた小、子
 生の優し
 せして、中国の良事、友
 達や家族に、料理の
 であす。





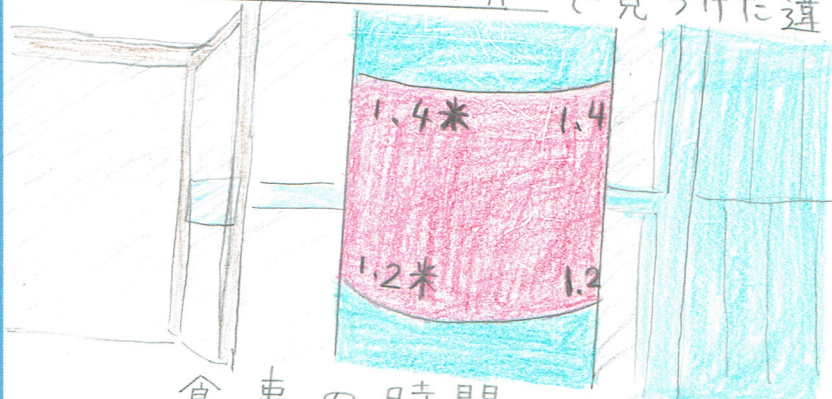
平成 30 年度 小学生中国派遣研修レポート

所属校【熊野小学校】

氏名【増見 柚希】

私は、この5日間で日本と中国とのいろいろな違いをたくさん見つけることができました。

極地海洋世界で見つけた違い



料金について

日本⇒年れいで変わります。

中国⇒身長で変わります。

1.2米 → 1.2 m (120 cm)

1.4米 → 1.4 m (140 cm)

食事の時間に見つけた違い

飲み物について

- ・基本的にはお湯かレモン水です。
- ・冷たい物はあまり出さないそうです。

味つけについて

- ・チャーハンは意外にも、味つけがうすかったです。

その他にも

- ・テーブルが回ります。
- ・はしは太いです。

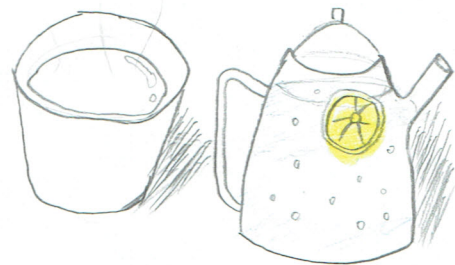
道路で見つけた違い

交通について

- ・ハンドル
日本⇒右側にハンドルがあります。
- 中国⇒左側にハンドルがあります。

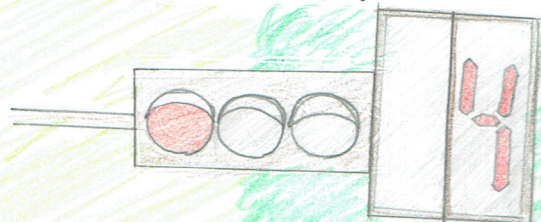
通行

- 日本⇒左側通行です。
- 中国⇒右側通行です。



信号

中国の信号にはあと何秒か、知らせてくれます。



学校で見つけた違い

- ・中国ならではの授業があるそうです。
- ・午後3時まで授業だそうです。
- ・選べる授業もあるそうです。
- ・家では、本を読んだり、家の手伝いをするそうです。

街を見ると、いろいろな建物などがありました。



← 「五月の風」

高さは30メートル、
直径27メートルの真赤な
モニュメントです。
導火線を象徴しているそ
うです。

「浅橋」

海の上にかかっている
浅橋の先にはお寺の
ような建物がありま
す。青島のシンボルと
して有名です。

「青島ビールのお店」

青島はビールも有名
です。ビールのお店
が2件に1件ある
ところもあります。

青島ビールのお店は、イルミネーションのようにかざっているところ
がたくさんあります。



感想

中国では日本と違う文化や風しゅうが
あり、とても勉強になり、おもしろいなと思
いました。他の国のことも知りたいなと
思いました。



平成 30 年度 小学生中国派遣研修レポート

所属校【下関市立長府小学校】
氏名【松原 恵仁】



1. 現地での体験

〈町並〉

たくさんの高層ビルが立ち並んでいました。一看すると都会だけどよくみると、緑がたくさんありました。また、さん橋をさかいに、都会と田舎で分かれていました。



川の右側

〈日本人小学校〉

中国の日本人小学校でも、日本と同じ教科書を使っているのにおどろきました。柔道の教室や室内プールなど、下関の小学校にないものがたくさんありました。



川の左側

〈名所〉

さん橋がありました。その先には神社のような建物があり、とてもきれいでした。また、その近くには小青島という小さな島がありました。青島の名前の由来だと言われていて、ドイツ人が建てた白い灯台がありました。

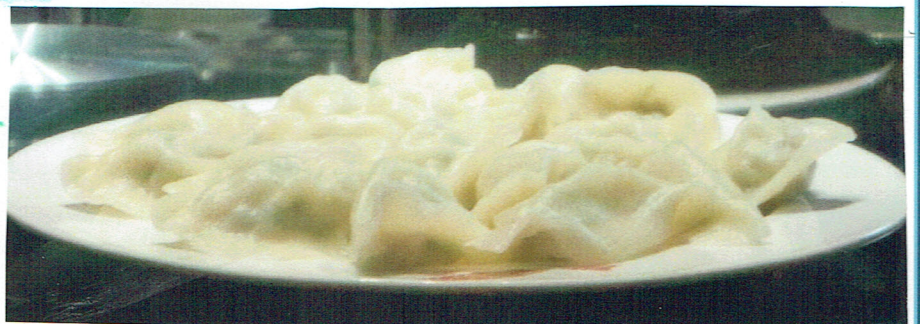
〈料理〉

ギョウザや小籠包などの中国の名物料理はとてもおいしかったです。また、辛いものは出さないでほしいと伝えていたにもかかわらず、辛いものもでてきて、中国と日本の文化のちがいがよく分かりました。円たくを毎日仲間と囲んで仲良くなれました。

〈領事館〉

パスポートの更新などをする所です。色々なビザの審査員があり、観光ビザや、就労ビザなどだそうです。仕事をする人が格好良かったので、ほくも将来外交員になってみたいなあと思いました。

1番おいしかった
ぎょうざ!!



2. 友達との交流記



〈婦人児童活動センター〉

中国の楽器について教えてもらうときに教えてくれた中国人の4・5年生と仲良くなりました。とても難しかったけれど、しっかり教えてもらいました。他にも教室に行ったときに、切り紙会を一緒にしました。中国の人は手さばきがとてもよかったです。びっくりしました。どちらも言葉ではなく表情やジェスチャーで伝え合いました。思っていたより、自分の気持ちがかつ伝わったのでよかったです。



〈太平路〉

西遊記の立体人形を作るときに筆談をしました。日本語の中から漢字だけを出して書くとなんとか意味が伝わりました。また、相手は3年生ぐらいだったのにとても文字がきれいだったのでびっくりしました。同じ漢字でも中国の字は少しちがうことを教えてもらい、びっくりしました。



3. まとめ

今回の石井修では中国と日本の文化のちがいがよく分かりました。中国の友達にとって当たり前のことがぼくにとってはとてもめずらしく感じました。また知っていた楽器については三味線に似た弦楽器やたいこなど似ている物がたくさんありました。言葉が通いなくても、表情や手ぶりで自分の意思を伝えられることが分かり、中国人の友達がたくさんできました。また一緒に行った仲間と本当に仲良くなり、かけがえのない経験ができました。



平成 30 年度 小学生中国派遣研修レポート

所属校【豊浦小学校】
氏名【村脇 巧乙】



ぼくがこの中国派遣研修で実際に中国へ行くと感じたことは、中国はイメージと違ってすごい国だということでした。たしかに中国に着いた初日には日本と違う所がたくさんあってとまどったりしましたが、3日間ほど経てくると、中国の文化や生活習慣に慣れてきて逆に、日本とは違った所を探すという事が楽しくなっていました。またぼくは、自分の目で見た中国の風景にとってもびっくりしました。ぼくのイメージだと中国は町のほとんどに高層ビルが建っていると思っ
ていました。たしかに町の中心部は高層ビルがたくさん建っています。たが、ぼくたちの泊まっているホテルの窓からは、青島がドイツの植民地になつていた時代に建てられた赤い屋根の家がたくさん並んでいるのが見え、新しいものの中に、ちゃんと歴史の面影を残している中国にとっても感動しました。

現地の子供たちとの交流記(パートのこ

研究 2日目に、婦人児童活動センターを訪問しました。そこでは、現地の子供たちが、中国の伝統芸能を披露してくれました。とてもクオリティが高く、びっくりしました。ぼくたちのした「桃太郎」では、いろいろなクイズを出して、みんなで盛り上がる事ができました。その後、プレゼント交換をしたのですが、そこでは、身ぶり手ぶりをまじえながらいろいろ会話をしたり、その後にも、現地の子に楽器を教えてもらったりと、さまざま体験を通して仲を深める事ができました。ぼくは、国を越えて友達をつくる事ができて、とても貴重な体験をしたなと思いました。



ここは青島？

現地の子供たちとの交流記のパート②

研修3日目に、太平路小学校を訪問しました。ここも同じように、太鼓の演奏や詩の朗読などがありましたが、前日とはまた違ったすばらしさを感じました。その後の体験授業で一番心に残ったことは、プログラミングです。コントローラーを操作してロボットを動かして、ブロックを速く運ぶというゲームなのですが、現地の小学生はものすごくスピードでブロックを運んでいました。ぼくが実際にやってみると、左右が逆になつたりと、1つのブロックを運ぶのに2分近くかかてしまいました。ぼくは「なんで日本ではプログラミングを授業をしないんだ」と現地の小学生たちがとてもうらやましかつたです。

最後に...

ぼくは、この中国派遣研修で色々な方々に支えられました。まずは、家族。ぼくが「中国に行きたい」という気持ちを後押ししてくれて、研修に必要ないろいろなものを用意してくれました。次に中島校長先生と野村先生。ときに優しく、ときに厳しく、ぼくたちに代表としての自覚を持つよう指導してくださいました。そして和木田さんと加野さん。ぼくが最終日、福岡空港でパスポートを落とすとしてしまった時、親身になって探して頂きました。見つけて日本に無事入国する事ができて、ホッとし、パスポートの大切さが身に染みて感じました。このメンバーで中国派遣研修に行くことができて、とてもうれしかったです。今回の研修で学んだ事や培った事が、無駄にならないように、これから活かしていこうと思えました。

青島のきれいな夜景





平成 30 年度 小学生中国派遣研修レポート

所属校【 下関市立勝山小学校 】

氏名【 森本 花奈 】

☆ 期間 10月13日 ~ 10月17日 青島

青島で心に残ったこと、印象に残ったこと

○ 婦人児童センター

中国のおどりの楽器の演奏を見ることができました。日本とは違うものがたくさんありました。中でも、バレエのように体をやわらかく、体全体でたいこをたたいて表現しているのを見て、表現力がすばらしくて感動しました。終わりに「快板」(かいばん、中国語でカイパン)というものを教わりました。快板とは、2つに分かれているカスタネットのようなものです。快板は馬の走る音などの表現ができます。日本にはない楽器でリズムをとるのがおもしろかったです。



私達は日本の文化を伝えるために「もも太郎」の劇をひろうしました。中国語でがんばりました。中国語は発音がおもしろかったけれど、たくさん練習して覚えたので伝えたかな、と思います。劇の中でのクイズはもり上がり、楽しんでくださったようで、よかったです。次に歌った「ふるさと」は日本語だったけれど中国の方は一生けん命に聞いてくださり、うれしかったです。

中国の友達との交流

○大平路小学校

大平路小学校で一番おどろいたのはクラブの多さと設備のよさです。クラブでは図工、ロボット、カンフーなどがありました。そして教室では黒板の半分が大きなタブレットになっていました。

また、図工の授業に入れてもらった時に、言葉は通じなくてもしぐさなどで自分の言いたいことを伝えることができました。

○青島日本人学校

日本人学校では日本人学校の文化を見せていただきました。7、8人ずつのたいこの演奏です。中国の文化ととても似ていて自分の学校の文化はすてきだなと思いました。

たいこ



まとめ

この石井修で私が一番楽しみにしていたのは中国の生活や文化を肌で感じることでした。昔からの文化を見て、中国はずっと自分の国の文化を大七カにしてきたのだと思いました。私も日本の文化を改めてよく知り、大七カにしたいという思いをもちました。

私のしょう来の夢は医者になることです。中国では医りようがあまり発達していないと領事館の方がいわれていたのです。たくさん医学を学んで役に立つことができました。また、中国の方々と接することで、中国が身近に感じられるようになりました。この石井修をしょう来につなげていきたいです。

